

部局名

農学部 海洋生物環境学科
フィールド科学教育研究センター(延岡)

担当: 村瀬 敦宣



テーマ

宮崎県は海洋生物相の境界線!? 身近な魚の分布調査レポート



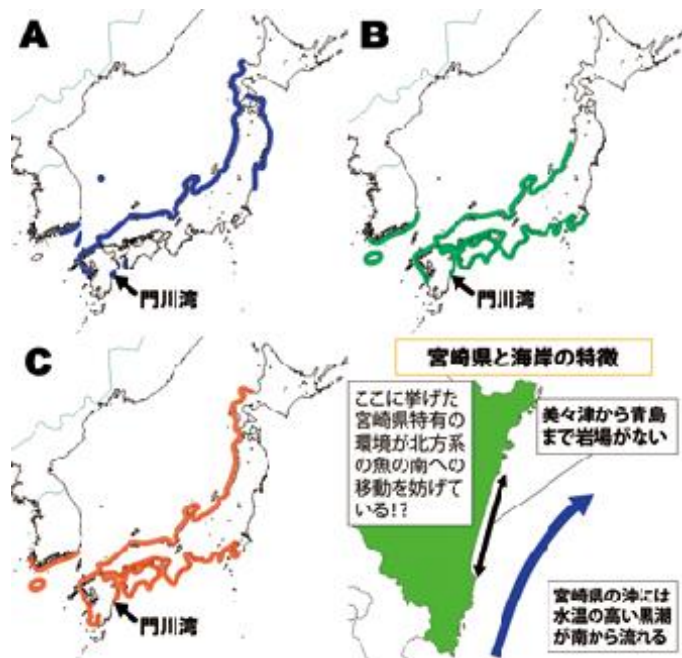
宮崎県は南北に長く、中心には長さ50 km以上にわたって広がる砂浜があります。この地形は県北部と南部に生息する海洋生物の種類に違いを生んでいるのでは、と私たちは考えました。

それを確かめるために、北方系の魚に注目して分布を調査したところ、ある種の魚たちは宮崎県の北部にある門川湾よりも南には生息していないことがわかりました。宮崎県の独特の地形が、海洋生物相の境界線になっていることがわかってきたのです。



詳細内容はQRコードから確認できます

のうがく図鑑: <http://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-fishery/post-5.html>



冷温帯性魚類3種 (A.ウミタナゴ、B. アナハゼ、C. ドロメ) の分布域と宮崎県の沿岸環境 (右下)

日本の太平洋沿岸に目をやると、いずれの種も宮崎県の門川湾が分布の南端となっている。



A. ウミタナゴ(ウミタナゴ科)

門川湾で採集されたウミタナゴ。

このウミタナゴ科の仲間は本州では普通に見られるが、宮崎県で見ついているのは門川湾のウミタナゴ1種だけである。



B. アナハゼ(カジカ科)

C. ドロメ(ハゼ科)

門川湾で採集されたアナハゼとドロメ。

いずれも本州ではごく普通の種類。なお、ドロメに近縁のアナハゼは青島より南にも生息しており、ドロメと異なる分布パターンを示す。